

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念と家庭的な環境に近づけるようかみやまだ敬老園の理念を職員会議には必ず唱和し、理念を共有し日々のケア・業務を行っている。 | 法人の理念、ホーム独自の理念については来訪者の目にもふれ易い食堂の壁に掲示し、スタッフ会議の席上で唱和を行い共有と実践に繋げている。また、食堂の壁には「みんな仲良く、けんこうに・・・」という「みんなの合言葉」も貼られ、当ホームでの生活の中で利用者と職員が共に生活している。職員は理念の持つ意味を理解し、利用者の生活を大切にして日々の支援に取り組んでいる。家族に対しては利用契約時に理念に沿った活動について説明している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 安心の家として子供たちとのつながりと地域の清掃活動・防災訓練などに参加しつながりを持っている。 | 開設以来自治会費を納め、案内を頂き、参加出来る行事には顔をだし地域に密着し開かれたグループホームとして活動している。今年は年2回実施される清掃活動や9月に行われた地域の防災訓練にも地域の一員として参加した。また、再開された上山田の夏祭りには神輿見物に数名の利用者が出掛け地域の人々と交流しひと時を楽しんだという。短大生、専門学校生の職場実習の受け入れは未だ再開されていないが、実施に向け準備を進めている。加えて、各種ボランティアの受け入れについても来年度に向け再開したいという意向を持っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 見学や問い合わせ、グループホーム、デイサービス利用のご家族から認知症に対する困りごとやケア方法についてお話を伺ったりアドバイスをする。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回開催し地域の方に出席して頂き、取り組みや状況報告しご意見をいただき、運営に生かしている。 | 新型コロナウイルスの状況が長引き書面での開催が続いていたが、5月8日の5類への移行を受け対面での運営推進会議が再開された。家族代表、利用者代表、自治会長、地域消防団員、2名の民生児童委員、市高齢福祉課職員、ホーム関係者が出席し2ヶ月に1回開催している。利用状況、行事、事故、職員関係、研修関係等の報告を行い、ホームへの意見、助言、提案等を頂きサービスの向上に繋げている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議に出席して頂き活動報告している。5類後7月より千曲市の介護相談員も来園してくださり現在の状況報告している。千曲市介護保険連絡協議会施設部会へ出席し施設間の情報の共有をしている。 | 市高齢福祉課には必要に応じ訪問をし、事故・ヒヤリハット報告や様々な事柄に付いて相談を掛け連携を取っている。市の介護相談員の来訪も再開され、2ヶ月に1回、利用者との交流の時を持ち、その内容は管理者に報告されている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し職員が対応して実施している。 | |

グループホームかみやまだ敬老園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束適正化委員会をスタッフ会議、運営推進会にて定期的に開催。身体的拘束廃止の指針の読み合わせやスピーチロックの研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は幹線道路に面しており安全確保のため施錠されている。時折、帰宅願望がある利用者があるが、車でドライブしたり、親戚の方と食事に出掛けたりして対応している。利用者は一日の大半を食堂で過ごしているが、職員はきめ細かな所在確認を心掛け安全に過ごしていただくようにしている。そうした中、転倒危惧のある方が数名おり、家族と相談の上、安全確保のためセンサーマットや人感センサーを使用している。3ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会が開かれ、また、年2回開かれる法人の身体拘束・虐待防止の研修に参加し、職員は拘束に対する意識を高め支援に当たっている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止について、定期的に研修で学び、グループホーム、デイサービスの利用者の虐待防止を一人一人意識し、職員間でもお互い見過ごさないよう防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 資料の読み合わせている。現在、後見人が付いている利用者の方いるため、話し合いを行いを協力し支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居、改定の際は契約書を読みながら説明し確認しながら進め、質問をお聞きし契約締結している。退居や住まい替えの際はご家族、利用者の意向をお聞きし、先の施設と情報を共有し、不安がないよう連携を取っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議にて利用者代表者、家族代表者の意見をお聞きし地域の方と意見を共有し運営に反映させている。介護相談員訪問時に利用者のお話した内容を伝えて頂き職員間で共有し対応している。家族会の開催が現在は出来ないが開催可能になった際はお話を聞き、運営に反映させたい。 | 家族の面会についてはコロナ蔓延中、制約を受けながら続いていたが、現在、玄関先で人数制限なしで15分ほど行い、殆どの家族が面会に見えられている。そうした中、ホームでの生活の様子は毎月発行されるお便り「グループホーム・かみやまだ敬老園」でお知らせし、一人ひとりの様子については行事等の写真を撮り貯めアルバムを作成して、家族の面会時に話をしながら見ていただき喜ばれている。また、殆どの利用者は家族と食事外出やお墓参り、知り合いの告別式等にも出掛けている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月、事業所の会議や申し送り、職員の意見を聞く機会を設けている。管理者は意見、提案を代表者に会議の場や電話にて報告、相談し運営に反映出来るよう努めている。 | 月1回、第1木曜日の夕方にスタッフ会議を開催している。統括施設長より本部関連の報告があり、利用者一人ひとりのカンファレンス、各種研修会、行事計画の検討、意見交換等を行い、職員間で共有している。法人として人事考課制度があり職員は目標管理シートを作成し、自己評価を行い、年2回管理者による個人面談が行われモチベーションアップに繋げている。合わせて年1回、職員対象にストレスチェックが行われ、メンタルヘルスにも取り組んでいる。 | |

グループホームかみやまだ敬老園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は管理者や職員個々の状況を把握し人事評価制度にて目標の把握と勤務状況を確認している。評価によって昇給upに繋がり、職員の向上心を持って働ける環境を作っている。勤務年数に応じたりフレッシュ休暇や表彰にて感謝を伝えている。職員間で交流が持てるよう福利厚生も整備されている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内の研修の年間計画を作成し毎月研修を実施している。職員の力量に合わせての研修に参加している。法人外の研修や資格取得に対する支援もあり積極的に参加できる環境が整備されている。研修で学んできた内容を事業所内で皆で学びにつなげている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内GH部会にて事業所の状況の共有や勉強会、課題解決を行っている。地域の施設部会に参加し地域の事業者の交流、実情や意見交換、研修があり事業所の施設運営に反映している。現在は相互訪問はコロナ禍で行えていないが可能になった際は交換研修行いたい。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービス開始時、本人に困っている事、要望等をお聞きする。また家族、ケアマネからも意見や要望を伺い、安心して利用して頂けるよう努めている。お聞きした情報を他職員に周知し、全員で対応出来るようにして | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービス開始時、家族の希望、意向をお聞きしている。初回の様子やご家族の気になる事など送迎時や連絡ノートを使用し不安がないよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人、ご家族、居宅ケアマネが事前の情報と利用する際の状況等を初回の話合いの中で確認し、他のサービス等も含め必要とされているサービスが提供出来るよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人の今までの暮らしの中で引き続き出来る事を職員や入居者と出来るよう支援している。食事作り、食器洗い、食器拭き、洗濯物たたみ、洗濯物干し等、ご本人の必要とされている、やりがいに繋がるよう、必ずお礼を伝えている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 5類後は面会時間制限はあるが県外の方も可能であり、コロナ禍では中々会えない方にもあって頂く機会を設けた。ご家族との面会や外食、お家に行かれたりと本人と家族の絆を大切に出来るよう過ごす時間を大事にしている。 | | |

グループホームかみやまだ敬老園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍では公共の場にはいく事は難しかったが、ご本人のお知り合いのお葬式に行くと久々にお友達との交流し引き続き面会に来れるよう対応した。教会、お墓参り、食事に参加出来るよう支援している。 | 家族から連絡を頂いている親戚や知人の方の来訪があり親しく歓談されている。洋服等欲しい物については職員と共に馴染みの店に買い物に出掛けている。また、理美容については2ヶ月に1回、顔馴染みとなったボランティアの美容師の来訪があり格安でカットしていただき、共用型通所デイサービスの利用者も数名利用されている。そうした中、1名の利用者は馴染みの美容師が来訪し、カットしていただいている。年末には利用者一人ひとりの手作り年賀状を作成して家族に発送する予定である。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | お話や関係性などを考慮し、席決めや隣の方とお話しやすい場になるように一緒に行って頂ける事を提案して関わりを持っていただけよう支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスが終了した後も、困りごとがあった際は相談可能な事をお伝えしている。その後も関係先に連絡した際は様子などお聞きしフォローやお声かけしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | これまでの人生の背景を知るためご本人・ご家族にお聞きし、生活意向の把握に努めている。あくまでも本人の希望を大事にしている。困難な場合は、スタッフ間でカンファレンスを行い検討している。 | 若干名の利用者が意思表示の難しい状況であるが、表情や仕草より希望を受け止めるようにしている。他の大半の利用者については優しく寄り添い提案をして、意向を受け止め、職員は共に行動するようにしている。日々の気づいた言動等はタブレットの中の業務日誌と申し送りノートに纏め、出勤時や申し送り時に確認し合い、利用者の意向に沿えるようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | お一人おひとりの生活歴、習慣の把握に努めている。生活の何気ない会話の中やご家族との会話、各スタッフの情報を共有しサービスにつなげられるようにしている。住み慣れた地域でと通所から入所になった方もいる。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 在宅での生活が出来ただけ維持できるような環境を整えているお一人おひとりの過ごし方や体調・力の現状を記録や申し送り・カンファレンスにて共有し現状把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月のスタッフ会議で、課題やご本人の希望について話し合い、介護計画を作成している。また、ご家族と話し合う機会をもって現状に即したプランを作成している。 | 職員は1~2名の利用者を担当し、利用者の日々の状況把握、カンファレンス時の状況報告、居室管理、足りない物の補充、家族との連絡等を行っている。家族の希望は入居時や面会時に聞き、カンファレンスの席上で意見を出し合い、また、モニタリングも実施しケアマネジャーがプラン作成に取り組んでいる。入居時は暫定で1ヶ月のプランを作成し、様子を見て短期目標6ヶ月、長期目標1年のプランを作成し、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、利用者一人ひとりに合った支援に繋げている。 | |

グループホームかみやまだ敬老園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 実行表や評価表を活用し、毎日、個別記録・日誌・申し送りを記録して気づきや様子を共有し、ケアの実践や見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 家族の状況に応じ、受診の付き添いなど必要なサービスを提供している。外部のサービスも取り入れている。感染状況をみて、買い物や外食支援など提供していきたい。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 傾聴や趣味活動などに地域のボランティアに入ってもらったり、消防署の方に参加して頂いて消防訓練を実施していたが、感染状況をみて再開していきたい。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人、ご家族の希望で主治医を決定し、定期受診・また必要に応じ早めの受診につなげている。ご家族や主治医に情報提供・相談をし適切な医療が受けられる支援をしている。 | 入居時に医療機関についての希望を聞いている。現在、全利用者が入居前からのかかりつけ医への2~3ヶ月に1回の受診対応で家族が同行している。後見制度を利用されている方がおり、受診時には外部のサービスを利用し付き添っていただいている。また、受診時には最近の様子について口頭か文書にて医師に伝えていただくようにしている。更に、毎月第1、第3木曜日には契約の訪問看護師の来訪があり、利用者の健康管理を行い、合わせて医師との連携が図られている。歯科については月1回、訪問歯科の来訪があり、診療と合わせて口腔ケアの指導も頂いている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 地域の訪問看護ステーションと契約をし、月2回の健康観察と随時の訪問・相談をして助言を受けている。必要時は医療へとつなげている。訪問時は、事前に情報提供を記入し伝えている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は、病院へ情報提供をし安心して入院治療ができるようにしている。入院期間中は病院の関係者の方より随時情報を提供していただき、早期の退院と受け入れができるように関係づくりをしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時にご家族と緊急時や終末期について話し合い意向を確認している。また、随時心身の状態を報告相談し、必要なサービスの検討をし地域の事業所と連携を持ち支援している。現在100歳の方の終末に向けて連携している。 | 重度化に対する指針があり、利用契約時に説明し同意を頂いている。食事や入浴が難しい状況となり終末期を迎えた時には家族、医師、ホーム職員で話し合い、家族の意向を確認の上、医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。また、看取りを希望されない場合にもホームとして出来る限りの支援に取り組み、医療機関も含め法人内の他施設や近隣の特別養護老人ホームへの住み替えも含めた支援に取り組んでいる。この数年看取り支援は行っていないが、年1回看取り研修会を行い、知識を高め備えている。 | |

グループホームかみやまだ敬老園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 全職員は心拍蘇生、AED使用の救急救命講座を年1回必ず受講し実践力を身につけている。 | / | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回昼、夜間を想定した避難訓練と年1回防災訓練を実施している。避難口や消火器の使用方法など確認し職員皆が防火・防災意識を高めるようにしている。 | 年2回消防署へ届け出の上、防災訓練を実施している。3月には火災を想定した水消火器を使つての消火訓練、利用者全員玄関先の駐車場まで移動しての避難訓練、通報訓練、緊急連絡網の確認訓練を行っている。9月には消防署と地域の消防団の参加の下、運営推進会議に合わせ夜間想定での避難訓練、消火訓練、通報訓練を行い防災意識の向上に努めている。また、9月の訓練には共用型通所デイサービスの利用者も参加している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 接遇や身体拘束・虐待防止の研修を受け、声掛けや対応が尊厳を尊重しているものかスタッフ同士で話し合いをしながら良い支援に繋がるように努力をしている。 | 利用者が安心して日々の生活を送れるように話をまず聞くことに心掛け、不安を取り除きわかり易い言葉でハッキリ、ゆっくりと目線を合わせ話しかけるようにしている。また、耳の不自由なについては筆談も交えながら対応している。呼び掛けについては利用者や家族の希望を聞き、苗字か名前を「さん」付けてお呼びし、入室の際には「失礼します」の声掛けを忘れないよう徹底している。そうした中、年1回、法令遵守、人権、虐待防止の研修会を行い意識を高め支援に取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自己決定ができるように働きかけや声掛け等行いご利用者の思いや意思を大切に考える。意思表示が困難な方は表情、仕草などから読み取るようにしご利用者の意思をくみ取れるように心掛けている。 | / | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご利用者様の希望を聞いたり、スタッフ同士で話し合いをしながらご利用者様のペースを大事に支援している。 | / | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2カ月に1回、美容師の方に来ていただき本人の希望に沿って整髪してもらう。また、行きつけの美容室の美容師に来ていただきカットをしていただいている利用者もいる。着替えはお好みにあった服を選んで頂いています。 | / | |

グループホームかみやまだ敬老園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 野菜を切ったり、炒め物、揚げ物などお手伝いしていただいている。また、月毎行事等行い楽しい食事が出来る様に心がけ行事食を提供している。 | 自力で摂取できる方が三分の二強、一部介助の方と全介助の方がそれぞれ若干名という状況である。献立は法人の栄養士が立てたものをアレンジして調理し、家庭的な料理を心掛け、出来立てのものを温かいうちに食していただくようにしている。利用者のお手伝いについては包丁を使える方には刻んでいただき、他の方にも野菜の下処理など、一人ひとりの力量に合わせ楽しみながら参加していただいている。今年の8月には恒例の納涼祭を行い、「かき氷」「綿あめ」「たこ焼き」等で夏を感じていただき、誕生日には「ケーキ」でお祝いをし、行事の際には「お弁当」をテイクアウトしたり「おはぎ」や「チラン寿司」等を手作りし楽しんでいる。また、5月8日の5類への移行を受け家族と外食に出掛ける方もいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 法人の管理栄養士が立てた献立をもとに調理している。食事量・水分量は毎食記録し体調管理に活かしている。必要な利用者様には介助したり、ミキサー食やきざみ食にしている。水分もとりをつけて摂取しやすいようにしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後ご自身で出来る方は声かけ、見守りを行い必要な方は義歯を外して介助等を行い口腔状態の確認をし、一人ひとり合った援助で清潔保持をしている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 出来るだけトイレでの排泄に努めている。自力でトイレに行かれる方はさりげなく失禁の有無を確認しパットやリハパンの交換を支援している。自力でトイレに行かれない方には定時で声掛けをし排泄の失敗を減らせるように配慮している。歩行状態の悪い方には夜間ポータブルトイレを利用している | 自立の方が半数弱、一部介助の方が三分の一、全介助の方が若干名となっている。職員は利用者一人ひとりのパターンを把握しており、定時でのトイレ誘導をするともに排泄表を参考に一人ひとりの様子を見ながら早目に誘導するようにしている。排便については3日間ない場合4日目にコントロールを行い、「お茶」「牛乳」「レモンティー」「スポーツドリンク」等で1日1,000cc以上の水分摂取に取り組みスムーズな排泄に繋げている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄をされたら必ず記録し一人ひとりの排泄間隔を把握し便秘にならないように注意している。水分を多く摂取していただき水分不足にならないように気をつけている。出来るだけ下剤を使用せず自然排便ができるように支援をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一人一人の体調や希望に合わせて週2回以上は入浴ができるように声掛けをしている。個々合わせて声かけ、見守り、介助を行い温泉の特徴も伝えて楽しんで入浴頂いている。 | 全利用者何らかの介助が必要な状況となっている。入浴拒否の方もなく、週2回の入浴を行っている。硫黄の匂いが漂う天然温泉を楽しみながら広い浴槽にゆったりと浸かっている。また、共用型通所デイサービスの利用者も必ず入浴を楽しまれている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | その日の体調や希望にそって、疲れが見られる方は、午前午後関係なく休んでいただく。基本は、夜間ぐっすり休めるように日中は一人一人の生活習慣に沿って活動して頂いている。 | | |

グループホームかみやまだ敬老園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の目的や副作用、用法や用量については、薬剤情報提供書ファイルで確認し、理解に努めている。症状の変化により薬が変わるときは看護職員と連携をとり職員全員が把握するように、情報共有をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや楽しみのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割を見だし援助している。制限も緩和されたなかで季節を感じて頂けるよう、ドライブや納涼祭、クリスマス会等で楽しい食事ができるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 現在、制限もだいぶ緩和されてきた。出来る事も増えてきているため以前通っていた教会に行きたい、お墓参り、外食をしたいなどのご希望を伺いながらご家族・地域の皆さんに協力いただきながら支援している。 | 外出時、自力歩行の方が半数強、車いす使用の方が半数弱という状況である。天気の良い日には玄関前の庭に出て外気浴を楽しみながら畑の野菜の生長や季節の花々を楽しんでいる。5月8日の5類への移行を受け、感染対策を取った上で外出し、外の空気を味わうようにしている。家族と食事や知り合いの告別式に出掛けたりしている方もいる。また、今年の春からドライブを兼ね「坂城町のバラ公園」「上山田温泉の夏祭り」「上田城址への紅葉見物」等に出掛け、季節感を味わっている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご利用者がお金を持つことの大切さを理解し、管理が出来る方にはお金を持って頂き必要時支払いも行っている。また一緒に外出し買い物支援などしていきたい。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話が来た際は、ご家族に電話をしたりご本人に取り次ぐ支援をして、ゆっくりお話をさせていただいている。手紙が届いた際には、お渡ししたり読む支援をしている。本人に届いた際はご本人に確認し職員代行しお返事している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 浴室、トイレ等、カーテンや声をかけ確認しプライバシーの配慮をしている。リビングは大きい窓があり、カーテン開閉し音や光など不快や混乱を招かない様調整している。また花や行事などの飾りを行い季節感を出したり、室温調節に気を配っている。 | 純和風な建物の当ホームは落ち着いた雰囲気を出している。玄関前の庭には丹精込めて育てた庭木と季節の花々、家庭菜園があり利用者の寛ぎの場となっている。玄関を入ると行事の様子を映した写真がパネル一杯に貼られ、活動の様子を窺うことができる。食堂は適度な広さが確保され、職員の間も行き届き易い造りとなっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 玄関にはソファ、一人になれたり、気の合った方同士一緒に過ごせるような空間がある。リビングの座席は利用者同士の関係性を見ながら席の配置にしている。 | | |

グループホームかみやまだ敬老園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に本人が使いなれた日用品や家具をお使い頂けるようお話し、持って来て頂いている。安心して生活できるよう配慮している。 | 掃除が行き届いた居室は清潔感が漂っている。持ち込みは自由で家族と相談の上、使い慣れたイス、テーブル、衣装ケース、ハンガーラック等でレイアウトされ、思い思いの生活を送っていることが窺えた。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | なるべく段差を少なくしたり、廊下やスロープ等手すりを設置している。各居室やトイレなど確認できるように表札やトイレとしているが、迷っている際はさりげなくお声かけしたりご案内して不安なく過ごせるように支援している。 | | |